

【英語・中1・The Year-End Events】

育成を目指す資質・能力

本時のねらい：現在進行形「今～している。」の表現を用いたペアワークを通して、絵の人物が今していることを伝えることができる。

ICT活用のポイント

動画やプレゼンテーションソフトを活用して、本時のめあてを確認する。

習熟度別のプレゼンテーションソフトを準備して、個に応じた学習内容の定着を図る。

フォームを活用して、振り返りと現在進行形の英作文や文法事項の問題に取り組む。

【つかむ】

単元の学習活動で使用する表現を動画やプレゼンテーションソフトで確認

【追究する】

新出言語材料の定着のため、プレゼンテーションソフトを使ってペアや個人で練習

【追究する】

進行形を使う場面をより具体的にしたワークシートで状況をイメージしながらペア活動

【まとめる】

めあてを振り返り、英作文などに取り組む

事例の概要

【事例におけるICT活用の場面①】

協働学習

- easy・nomal・hardの3段階に分けたプレゼンテーションソフトを活用して現在進行形の文をペアで練習する。
- 早く終わったペアは個人でも練習する。

【事例におけるICT活用の場面②】

振り返り

- フォームにめあてについて振り返るコメントを入力する。
- フォームで現在進行形の文法に関する問題や英作文の問題にもチャレンジする。

【英語・中1・The Year-End Events】②

【事例におけるICT活用の場面①】



○現在進行形の定着を図る場面で、教師がeasy・nomal・hardの3段階のプレゼンテーションソフトを準備し、生徒はペアで英文を伝え合う。1人1人の習熟の程度に応じて個に応じた学習を実施することができる。

○生徒は自分でできそうなレベルを選んで取り組み、達成感を味わうことができる。さらに上のレベルに挑戦しようという意欲にもつながる。

○ペア活動が終わった生徒は個々でチャレンジすることで、学習内容の定着につなげることができる。

【活用したソフト】

○スライド

○フォーム

【事例におけるICT活用の場面②】



○振り返りをフォームで行うことで、教師がその場で確認することができ、良い例を取り上げ、すぐに共有することができる。

○文法的な問題を用意し、解答を送信すると答えとスコアが返信されてくるようにすることで、生徒はすぐに確認することができる。

○英作文は、間違えてもやり直しが容易である等の理由で、書くよりも打つ方が抵抗が少ない生徒も多い。